

時

言

## 時局に對する技術者の態度

皇帝陛下御訪日の御旅より還御せられ宮廷内に建國神廟設立されたることは滿洲國として劃期的の事柄である。長らく我等の長官たりし星野直樹氏が近衛内閣の無任所大臣兼企劃院總裁に就任せられ新に元企劃院次長武部六藏氏を新長官として迎ふ日滿不可分の基礎愈々因きは慶賀に堪えない。

苦節二十數年捲土重來の勢とは將に歐洲に於ける獨逸の最近に於ける狀況であるが科學の發達。技術の進歩が如何に獨逸の戰勝に貢獻したるかは今更贅言を要しないところである。我等技術者の孜々として努力せる効果は現在直面せる非常時局に於て漸く認められんとしてゐる。近衛新内閣の橋田文相は教學の刷新の根本方針の一つとして「科學の眞諦を普及發展せしめ國家奉仕實現の實踐的基礎を確立すること」といふ項目を擧げ、科學研究施設の増設並びに擴充整備と研究者及び技術者の増加並びに素質の向上とを強調してゐる。我等技術者の責務愈々重且つ大なるを感ずると同時に世界的轉換期に際する國家百年の大計を誤らざる、科學的、技術的國策の遂行を期待して止まない。それには技術者の眞劍なる國策的立案、計畫と國家の施政方針とが步調を一つにすることが必須なる條件である。況や物資不足、資金の統制の影響を考慮する時徹底せる重點主義的の國策遂行を強調するものである。(中島時雄)